

船舶事故等調査報告書

平成27年2月26日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014神第125号
事故等種類	推進器損傷
発生日時	平成26年4月3日 14時30分ごろ
発生場所	和歌山県串本町串本港 串本港北防波堤灯台から真方位092°500m付近 (概位 北緯33°28.1′ 東経135°47.6′)
事故等調査の経過	平成26年10月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 引船 88三協丸 <sup>さんきょう</sup> 、147トン 140869、三協産業株式会社 B 土運船 SS-60、不詳（1,400m <sup>3</sup> 積み） なし、三協産業株式会社
乗組員等に関する情報	船長、六級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	A 右舷プロペラに曲損 B なし
事故等の経過	A船は、船長ほか3人が乗り組み、空倉で無人のB船を長さ約300mのえい航索で引き、串本町沖を航行中、風が強くなってきたので、えい航索を約50mに短縮し、串本港へ避難することとした。 船長は、錨泊作業に備え、乗組員をB船に移乗させるため、機関を使用してB船に接近しようとしたところ、平成26年4月3日14時30分ごろ、海中に没していたえい航索がA船の右舷プロペラに巻き付いて機関が停止した。 A船は、ダイバーにより巻き付いたえい航索が撤去された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風速 約12m/s、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期
その他の事項	A船のえい航索は、先端にシャックルが取り付けられ、長さ約20mのワイヤロープが接続されており、えい航索がたるむとワイヤロープに引かれて海中に沈む状況であった。 船長は、東風によりゆっくり流されているB船に接近する際、えい航索が沈んで見えない状況下、経験と勘により、えい航索の位置を推測していた。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与	あり なし

<p>気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>A船は、串本港において、えい航中のB船に乗組員を移乗させようと接近中、海中に没していたえい航索が右舷プロペラに絡んだことから、推進器が損傷したものと考えられる。</p> <p>船長は、B船への接舷に意識を向けていた上に、船尾に乗組員を配置してえい航索の状況を報告させていなかったことから、右舷プロペラが海中に没していたえい航索に接近していることに気付かなかったものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、A船が、串本港において、えい航中のB船にA船乗組員を移乗させようと接近中、海中に没していたえい航索が右舷プロペラに絡んだため、発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗組員は、えい航索の状態を常に確認しておくこと。</li> </ul>